

令和3年4月1日に思う

「痛恨の極み」です。このたびの職員による不祥事について、あらためまして村民の皆さんに心よりお詫び申し上げます。

誠に断腸の思いであり、管理監督の職にあるものとして、その責任の重さを痛感しており、深く反省しています。

日々、叱咤激励をいただき、かつ行政に大きな期待を寄せていただいている村民の皆さんの怒りと落胆は図り知れません。本当に申し訳ありません。

今回のことで、村民の皆さんはもとより、議員各位からもお叱りや励ましとともに、さまざまなお指摘等をいただきました。東谷議長からは「社会や組織は信頼関係なくして成り立たない。そのことをより確かな関係にするためにも、日ごろより意思疎通を図るとともに、教育や勉強会が大切である」とのご忠告をいただき、真摯に受けとめています。

今回のことで「水源地の村づくり」や「都市にはない豊かな暮らしを築くこと」が崩れ落ちたとは考えていませんが、信頼回復には相当な時間を要するものと覚悟しています。あらためて行政が一丸となり、一層規範意識を高めて再発防止に努め、「水源地の村づくり」に邁進する所存です。どうか皆さん、お叱りとともに、ご指導ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。